

# 褥瘡だより36号

2020年4月発行 ふくの若葉病院 褥瘡対策委員会

病棟で拘縮のある患者さんが入院された時、ポジショニングをどうしようと悩んだ事はないですか？ 今回も事例でポジショニングの紹介をします。参考にしてみてください！

## 事例3 脳梗塞 下肢がクロスしている 両踵に褥瘡発生があった



- ・左下肢の内側へのこわばりが強く下肢が重なる為褥瘡発生の危険性がある。
- ・こわばりが強い為下肢の拘縮が進行していく。

**ポジショニング前**



- ・両下肢が重ならないように縦長のクッションを挟む。
- ・右踵部に圧がかからないように踵の下にクッションを入れる。

**ポジショニング後**

## 事例4 認知症、誤嚥性肺炎により寝たきりとなり両上下肢が屈曲拘縮



- 両上下肢の屈曲拘縮が酷く今後も進行していきそう。

**ポジショニング前**



- 下肢と下肢が重ならないように間にクッションを入れる。
- 下肢が浮かないようベッドと下肢の間にクッションを置く。

**ポジショニング後**